

人が生きて老いてゆく先には、
必ず死と別れがあります。
でも人生の最終章は悲しいだけではありません。
お互いを思いやり、かわす笑顔もありました。
今回もまた、誰もが自分のこととして
感じてもらえる物語になったと思います。

信友直子 (監督・撮影・ひとり娘)



ロコミが広がり異例のロングランになった
『ぼけますから、よろしくお願ひします。』(18)



あれから4年。90代夫婦の愛の形を描いた感動の物語がふたたび始まる。

本作では前作をひも解きながらその後の夫婦の物語を描く。老老介護、認知症、看取り。日本全体が抱える高齢化社会のリアルな問題をありのままに、かつ、時にユーモラスに綴っていく。認知症とともに生きることの大変さや家族の苦勞に共感する一方で、こんな風に生きられたらと憧れを抱かせてくれるような夫婦の姿があった。

広島県呉市。信友直子監督が描くのは年老いた自らの父と母。アルツハイマー型認知症を発症した母の症状が進むにつれ、父は95歳にして人生で初めて家事を覚え、妻を支えている。現実を丹念に見つめた前作『ぼけますから、よろしくお願ひします。』は、令和元年度文化庁映画賞・文化記録映画大賞、キネマ旬報ベスト10文化映画3位、ぴあ映画の初日満足度では1位になるなど高い評価を得た。



東京で働くひとり娘の「私」(監督・信友直子)は広島県呉市に暮らす両親を1作目完成後も撮り続けた——



「2018年。」
父は家事全般を取り仕切るまでになり日々奮闘しているが、母の認知症はさらに進行し、ついに脳梗塞を発症、入院生活が始まる。外出時には手押し車が欠かせない父だったが、毎日1時間かけて面会に行き、母を励まし続け、いつか母が帰ってくるためのと98歳にして筋トレまで始め周囲を驚かせる。しかし2020年春には新型コロナウイルスが猛威をふるい面会すらままならなくなる。



ぼけますから、
よろしくお願ひします。
～おかえりお母さん～



監督・撮影・録り：信友直子 プロデューサー：清岡 大典 編出稿：制作プロデューサー：稲葉友紀子 編集：目見田健 撮影：高本秀 河合輝久
音楽効果：金田智子 ライン編集：池田聡 監音：露永憲一 制作プロダクション：スタッフラビ 制作：フジテレビ ネットワン 関西テレビ 信友家 配給：宝伝：アンプラグド
© 2022「ぼけますから、よろしくお願ひします。～おかえりお母さん～」制作委員会 2022年/日本/ドキュメンタリー/101分/ビスタ/2.0ch
bokemasu.com @bokemasukara2

ぼ ら ら



ぼららの耳が
認知症啓発カラーの
オレンジ色になるよ

ボランティア活動展

昨年の様子です♪



認知症初期集中支援チームって??

認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、認知症の方やその家族に早期に関わるチームのことです。

当日は、認知症初期集中支援チームの紹介コーナーもあります。

春日井市社会福祉協議会
ボランティアセンター
マスコットキャラクター